

無形文化財



小川町教育委員会提供

細川紙 小川町・東秩父村

小川町・東秩父村を産地とする、手漉き和紙の製作技術です。和歌山県の高野山麓、細川村で漉かれた和紙が消費地に近い江戸近郊で漉かれるようになったものといわれ、主に大福帳など江戸商人の記録用紙として使われてきました。原料は楮で、竹製の簀を使って、流し漉きされます。



小川町教育委員会提供



八潮市教育委員会提供

ながいたちゅうがた 長板中型 八潮市、三郷市

浴衣を藍染めする染色技術です。薄い布地の両面で、模様がぴったり重なるように型付け（型紙を当てて、染めずに白く残す部分に糊を付ける作業）を行うのが特徴です。埼玉県では、県東南部に広まり、現在は八潮市、三郷市で生産されています。

職人の「わざ」

江戸木目込人形 さいたま市

桐塑（桐のおがくずと糊を練ったもの）を型抜き・乾燥させて作った生地に、衣裳に合わせて筋彫をして、そこへ布地を貼り込んで（木目込んで）作る人形です。埼玉県では、第二次世界大戦中に東京から疎開してきた職人によって岩槻に技術が伝えられ、産地となりました。



さいたま市岩槻人形博物館提供